

おごせ 教育 Pick Up



越生小学校

校内書き初め展に向けて、6年生が体育館で競書会を行いました。寒さの厳しい会場でしたが、両膝をついて書初め用紙と向き合い、息も止まるほど真剣に筆を動かして作品を仕上げました。

梅園小学校

1月13日に5・6年生がときがわ町の上サ（かさ）スケート場で、スケート教室に参加してきました。最初はぎこちない動きの子どもたちもすぐに順応し、次第に上手に滑れるようになりました。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子どもたちを写真で紹介するコーナーです。



越生中学校

1月11日、地震と火災を想定した避難訓練を実施しました。また、消防組合越生分署の方の協力のもと煙道体験も行い、「避難する場合は低い姿勢で壁伝いに避難すること」などを教えていただきました。



本校は創立64年目を迎えました。本校の取り組みをご紹介します。本校では「志教育」のもと、世界を見渡す広い視野、不易と流行をしっかりと受け止める深い洞察、そして他人と共に生きるための思いやりを身にまとい、国際社会の良きリーダーとして活躍できる人材を育てます。新年度に向け、人

ズームイン教育238

飛躍の年

武蔵越生高等学校



工芝のグラウンドが出来上がり、新コース制を導入し、さらに進学実績を上げていきます。

オリンピッククイヤーとなった2016年、本校卒業生の設楽悠太選手が陸上日本代表選手として選出されました。これを皮切りに、陸上部は各種大会で活躍、設楽選手らを擁した2009年ぶりに全国高校駅伝大会に出場することができました。他に、柔道・ソフトテニス・チアリーダー・バドミントン・和太鼓の各部が全国大会に出場し、活躍の場を広げています。今後とも地域との連携を強化しながら、全力で生徒をサポートする環境を整えていきます。進化する武蔵越生にご期待ください。

越生浪漫

No.97

町制施行百周年記念マスコット

「うぐいすのウーちゃん」

各種のイベントや地域おこしなどで活躍し、エッセイストのみうらじゅん氏が命名したことでも知られる「ゆるキヤラ」ブームの原点は1999年とされています。以降、多くのご当地キヤラが群雄割拠し、今や「ゆるキヤラグランプリ」が開かれる時代となりました。越生町でもマスコットキヤラクター「うめりん」が活躍中です。

ONOW 誇れる郷土の創造を』のテーマで公募され、最優秀作品に選ばれた梅園小学生5年生の関根美樹さんが描いた「うぐいすのウーちゃん」です。「ウーちゃん」は、町の鳥「うぐいす」が、町の木「ウメ」の枝を銜えた、まさに越生を象徴するマスコットです。さくらの山公園の中段には、百周年記念の「ウーちゃん」が建てられています。

その後、「ウーちゃん」は図書館のシンボルマークなどに使用されていますが、時代の流れとともに、「うめりん」に主役の座を奪われてしまいました。

今回、町制施行百周年を記念した100ポイント標柱の建替工事では、石柱に取り付けるステンレスプレートに「ウーちゃん」を配置しました。「ウーちゃん」と一緒に100ポイントを巡り、越生を見つめ直してみましよう。

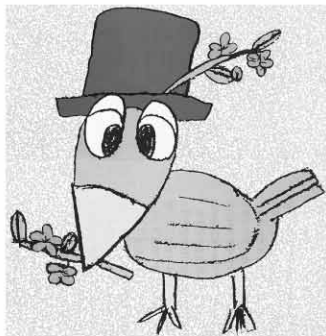
1 イタヤカエデ

町制施行百周年記念 越生町再発見100ポイント

平成元年度選定 平成二十八年再度再建



ステンレスプレート見本



うぐいすのウーちゃん（左から 原画、本を読むウーちゃん、さくらの山公園のモニュメント）

越生町の学校プールで水泳中、変な生き物を捕まえることがあります。カマキリに似ているため、水中のカマキリ、ミズカマキリの名前がつかまされた◆体は細長く体長約43mm、黄褐色。枯れた竹の枝のようです。触角は小さく、複眼の下にあり、口器は管状で先端が鋭く、小魚や水生昆虫に突き刺し、体液を吸います。前脚の先端は折りたたみ式のナイフのようで細くて長く、変形して鎌状の捕獲肢となっています。水中ではあまり動かず、近づいてくる小魚をサツと前脚を折り曲げて挟み、腿節中央の突起で突き刺します。泳ぎは上手でなく、水草などの上を歩きます。尾端に長い呼吸管があり、この管を水中から外に出して空気を取り入

おごせ 昆虫と自然の館 通信 No.58

ミズカマキリ

〔半翅目 タイコウチ科〕



◆小魚を捕獲して体液を吸う ミズカマキリ成虫

れます◆翅は水中では使えません◆池の水質悪化や個体密度が高くなると陸にあがって翅を広げて空高く飛び、ほかの水場に移ります◆灯火にも飛来します◆本種を地上に置くと、2つの前脚を前に、中脚と後脚を後ろに伸ばして硬直し、枯れ枝のようになり、自己防衛をします。成虫で越冬し、水中や湿気の多いコケ、落ち葉の下などで過ごします。
(大熊光治)